

コ・メディカル形態機能学研究会 第4回総会報告

会長 磯村源蔵

コ・メディカル形態機能学研究会の第4回総会を下記の要領で行ったので報告する。

日時：平成18年3月28日（火）15：15～17：00

場所：北里大学医療衛生学部A-3号館33番講義室

最初に、議長千田耕輔先生、書記田口明子先生を選出し、議題に従い議事の進行を図った。

出席者109名(うち委任状67名):会員196名のうち30%の59名出席で総会が成立する。

議題

1. 平成17年度事業報告および会計報告
2. 平成18年度事業計画並びに予算案
3. 当研究会の学会昇格について
4. 学術集会の開催時期の変更について
5. 第5回学術集会(時期、場所、集会長)について
6. 会費納入について
7. 会員の再登録について
8. その他

〈議題1〉．平成17年度事業報告並びに会計報告

1) 現在の会員数

会員数 196名（平成17年3月23日以降平成18年3月15日現在）

内訳 新規加入会員 19名（平成17年度17名，18年度2名）

退会会員 10名

2) 機関誌「形態・機能」の発刊

第4巻1号（平成17年9月）および2号（平成18年3月）を発刊した。

1号内容：原著論文2題、シンポジウム（11題）、報告その他

2号内容：原著論文2題、第4回学術集会抄録、その他報告など

3) 第4回学術集会の開催

日時：平成18年3月28日（火）

場所：北里大学医療衛生学部A3号棟33番講義室

世話人：千田耕輔先生（北里大学）

田口明子先生（北里大学）

後藤保正先生（首都大学東京）

19題の一般発表と特別講演1題が発表された。

4) 座長推薦による学術集会演題の機関誌「形態・機能」への投稿推進

第3回学術集会で4人の座長から推薦のあった4名の発表者に投稿を依頼した。2名は都合が悪く、2名からの投稿を受け、4巻1号と2号に掲載した。

5) 顧問の活用

役員は8名で、そのうちの4名が主として本部役員としてコ・メディカル形態機能学研究会の運営にあたり、4名が機関紙「形態・機能」の編集・査読にあたってきた。4名の編集委員だけでは負担が大きいこと、査読範囲が広すぎで対応に苦慮することから、それぞれの分野をカバーできる体制にするために会則にある顧問の活用（第10条3項）を起案した。上述の理由に加えて、当研究会の地方ごとの活性化を進め現役員体制を積極的に助言・補佐することを目的とした。全国を北海道・東北地区、関東地区、中部地区、近畿地区、中国・四国地区、および九州地区の6地区に区分し、また専攻分野もリハビリ、看護、検査、放射線、その他の5分野として、偏りのないよう考慮して役員間で推薦し、10名の顧問を本人の同意を得て委嘱した。以下の方々である。

武田利明（岩手県立大学看護学部）
平野茂樹（新潟大学医学部保健学科）
真田弘美（東京大学大学院医学研究科看護学）
林正健二（山梨県立大学看護学部）
藤本悦子（石川県立看護大学）
勝田逸郎（藤田保健衛生大学短期大学）
河上敬介（名古屋大学医学部保健学科）
三谷 章（京都大学医学部保健学科）
川真田聖一（広島大学大学院保健学研究科）
加藤克知（長崎大学医学部保健学科）

6) シンポジウムの共催

平成17年10月1日名古屋大学医学部で行われた理学療法士・作業療法士の人体解剖実習を推進する会（世話人代表 河上敬介）主催のシンポジウム「理学療法士・作業療法士の人体解剖実習による教育の昨日・今日・明日」の抄録を「形態・機能」に掲載し、リハビリ系会員への情報提供を図るという目的で共催とした。投稿規程に基づく掲載費が主催者より支払われた。

7) 医学中央雑誌刊行会との医学文献利用許諾契約書締結

日時：平成18年1月10日

内容：契約日以降の機関誌「形態・機能」掲載の原著論文の著者抄録（タイトル、発表者名と所属、キーワードを含む）を1原稿あたり630円（電子データ）で医学中央雑誌に販売する。なお、機関誌「形態・機能」に掲載された論文などの著作権はコ・メディカル形態機能学研究会に属する。

8) コ・メディカル形態機能学研究会会員登録用紙のスタイルの変更

現在の会員登録用紙では入会日および入会者の正確な分野別所属が曖昧で、役員選挙の被選挙権や投票分野が正確でない。メールによる相互の通信が今後必要となるので登録用紙を使いやすいように刷新した。

9) 会費 3 年以上の未納者について

3 年間会費未納者は会則（第 7 条 2 項）規定により自動的に退会扱いとなるので 26 名の該当者本人と直接連絡を取り事情を説明して、継続か退会かを明瞭にした。継続希望者には会費の支払いをお願いし、退会者は不明者 1 名を加えた 5 名であった。

10) 第 4 回総会に対する委任状の機関誌「形態・機能」への同封

今回は特に当研究会を学会にする重要案件が提出されるので、総会の成立の定足数を確保するため、機関誌に委任状の葉書を同封して発送・回収した。50 円×220 名＝11,000 円の出費となった。73/196＝37.2%の回収率であった。また、同時に e-mail による委任状の受付も行い（実験的な試み）、e-mail アドレス登録者 125 名中 25 名からの提出があった。重複して提出した会員はどちらか一方を有効とした。

〈議題 2〉．平成 18 年度事業計画並びに予算案

1) 機関誌「形態・機能」発刊予定

5 巻 1 号（平成 18 年 9 月上旬）および 2 号（平成 19 年 3 月上旬）を発刊する。

1 題でも多くの質の高い原稿を掲載するように努力するが、座長推薦も活用したい。

2) 顧問の一層の活性化

前回の総会で検討された「顧問」について単に 1. 査読者としてだけではなくて

2. 地域統括者としてその地域での会員の動向把握、機関誌郵送の経費削減に向けた協力依頼、会員増を目指す広報活動、会員の異動に関する連絡会員からの意見の収集、

3. 次期学術集会開催の打診、などを行う。

3) 予算案（別紙）

〈議題 3〉．当研究会の学会への昇格について

第 3 回総会で提案され、継続審議となった学会昇格について調査した。学会は一般的に、日本学術会議協力学術研究団体のことを言う。日本学術会議会則第 34 条協力学術研究団体に関する規定があり、申請書により日本学術会議へ申し込むと、幹事会で審議される。承認されると日本学術会議協力学術研究団体の称号が付与され、以後緊密な協力関係を保つことになる。申請条件は

- 1) 学術の向上発達を図ることを主たる目的とする団体であり、活動していること
- 2) 個人会員である構成員の数が 100 名以上であること
- 3) 会則・約款、設立趣意書、役員名簿の完備
- 4) 機関誌発行（誌名、創刊年月、発行回数/年、発行部数）
- 5) 会合（年次総会、全国学術集会、公開講演会など主な会合名および開催数/年）
- 6) その他連合体への加盟状況

学術会議の求めに応じ学術会議の活動に協力し、学術会議会員または連携会員候補者に関する情報などを提供すること、研究団体との連絡調整を行い、学術会議の各委員会の審議に協力する、などがある。具体的には

- 学術会議の広報刊行物、ニュース・メール等の配布・配信

- 選考委員会からの会員および連携会員の候補者に関する情報の提供
- 適当と認められる会議の共同開催または後援

以上が規定されている。

学会となり、学術発表が研究業績とカウントされ、出張旅費が認可されるならば現実的利益はあるが、それよりコ・メディカル領域の学術研究団体を公認してもらうことで、今後の活躍の場が保障される。これを機会に研究に打ち込み、新しいコ・メディカル研究分野を作り、投稿論文も増やし、名実ともに各会員が学会にふさわしい活動を展開することを望む。

当研究会が約 200 名の会員構成、雑誌の発行などを考えても学術団体としての条件が整い、新しいコ・メディカルの形態機能学領域を作り上げていかなければならない。

解剖学会との関係について、今までは日本解剖学会の中の 1 懇話会としてコ・メディカル形態機能学研究会を形成し、解剖学会員数を増やすのに協力した。当研究会の役員は現在全て解剖学会会員である。

学会として独立しても、形態系会員にとっては解剖学会との密な関係を今後も失うことはあってはならない。解剖学実習はコ・メディカル教育部門の中心課題であり、解剖学会に出席し積極的に発言することが大切である。特に、解剖学実習を続けるには解剖学会、あるいは解剖学教室との密接な関係が維持されなければ継続できなく、解剖資格を取ることも不可能となる。解剖学実習を医・歯学部の解剖学教室の一方向的なサービスとして捉えるのではなく、コ・メディカル形態機能学会が積極的に解剖学実習実施に対する経費負担、人的援助などに関する協力活動、そして業績貢献や献体会員増加運動に協力・参加しなければならない。

本動議は出席者の絶対多数の賛成により承認され、平成 18 年 4 月 1 日からコ・メディカル形態機能学会となる。日本学術会議へは書類申請を行い、協力学術研究団体の指定を受ける。

役員については当研究会役員が残任期間をつとめ、次期役員選挙は平成 19 年末を予定する。

〈議題 4〉．学術集会時期の変更について

学術集会時期については一応秋期を目途に当面学術集会長に一任し、適当な会場の準備をお願いする。

従来の 3 月は卒業の時期と重なり学生（大学院生を含む）の出席が困難という声が聞かれ、

変更の要望が出ていた。解剖学会は大抵 3 月末日に予定されるので、形態学系会員は解剖

学会に出席し、秋にはコ・メディカル形態機能学会に出席して欲しい。

〈議題5〉．第5回学術集会（時期、場所、集会長）について

日時：平成18年9月23日(土)

場所：山形大学医学部

集会長：渡辺 皓先生（山形大学）

〈議題6〉．会費納入について

年会費3,000円は非常に安価で、支払いが容易である反面、いつでも支払えるからという安心感もあり、つい忘れがちである。機関誌「形態・機能」の各巻2号（3月上旬発刊予定）に必ず振込用紙を挿入するので、それを用いて会費納入をお願いしたい。3年間未納者に直接連絡を取ってみると、忘れていたので3年目には未払い者名簿を作成して機関誌に挿入して会費納入を促してほしいという要望があった。

〈議題7〉．名簿再登録について

学会昇格が承認されたので、コ・メディカル形態機能学会への再登録をお願いし、今後会員として問題のおきないように注意する。

以上

学会昇格と今後の展望

平成18年（2006年）3月28日、北里大学で開かれた第4回総会で、コ・メディカル形態機能学

研究会は会員の総意として学会に昇格することを決定した。コ・メディカル形態機能学の設立

を宣言したことになり、記念すべき出来事といって良い。

平成5年（1993年）7月21日、当学会の曙光となる第1回パラメディカル解剖学懇話会が世話人

；末永義圓（北海道大）・小林邦彦（名古屋大）両先生のもと北海道大学で開かれた。医療系

大学設立以前の出来事で、医療短大における解剖学教育の実態調査と解剖学教育の充実、そして

教員相互のコミュニケーションを計る目的での最初の会合であった。その際、各分野を代表する

教員の講演と同時に事前に用意された全国医療短大の授業内容アンケートと解剖学教育に対する

意見・問題点の集約が「資料」という形で配布された。資料を見ると、医療短大の解剖学教員は

どこも1名、教育方法も解剖・生理学、または解剖・病理学、あるいは解剖・栄養学といった形の

2 科目兼担が一般的で、学生数 100 名以上の合同講義、適切な教科書無し、実習は数回の見学のみ、

良い標本は無しといった「無い無いづくめ」の記載が目立つ。この資料をパラメディカル解剖学

の原点と考え、提案された教育上の問題点を解決するため平成 14 年（2002 年）までに 8 回の同懇話

会が開催された。第 8 回（浜松）の席上、教育と形態学だけに限定しないで機能も視野に入れた新

しい分野の研究会設立が提唱され、同年 9 月に同懇話会はコ・メディカル形態機能学研究会と名称

を代え、同時に機関誌「形態・機能」の刊行が開始された。その後 4 年を経て今回の学会昇格とな

り、解剖学に関する教育問題だけの懇話会から研究を主とする学会に脱皮したことになる。

少子高齢化社会の到来と、近年の高度医療技術の発達によりチーム医療の必要性が高まり、コ・メディカル分野に対する社会の認識と期待から質の高さも要求される事態になった。その

第一は EBM 精神に立脚した科学的思考の実践である。第二は形態学の枠に留まらず形態学を

基礎とする生理作用の研究、形態を構成する物質化学的な研究、形態と機能を統合した分野などの

追及である。これが我々会員が目指すコ・メディカル形態機能学そのものの定義といえよう。

今後 10 年をかけてそうした研究を遂行し、国内で高い評価を受けている機関紙「形態・機能」に

成果を多数発表して蓄積をはかり、遅蒔きながらもコ・メディカル形態機能学の具体的な姿を提示

して、学問の流れを築き上げて行きたい。その課程で「形態・機能」の発表論文も現在の

Summary

だけの英語表記から、「形態・機能」の英名である「Structure and Function」に相応しい英語表現

に漸次代える努力をなし、世界の研究者が即座に全体を評価するようにして行けたらよいと考えている。

当学会が日本のコ・メディカルの代表的学会に留まらず、世界をリードするコ・メディカル形態機能学会を目指して成長してほしい。会員諸兄の更なるご健闘を期待するものである。

コ・メディカル形態機能学会会長 磯村源蔵